

第 87 回宮崎大学眼科研究会

日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業 (59046)

- ◆日 時：令和 3 年 1 月 16 日 (土) 16:20~19:00
- ◆配信会場：宮崎観光ホテル 東館 2F 初雁の間
〒880-8512 宮崎市松山 1-1-1 TEL：0985-27-1212
- ◆会 費：2,000 円
- ◆開催形式：Web 開催 (ZOOM) または現地視聴 (3F 翠耀)

Web で御参加の場合は事前登録が必要となります。daiki.nakamura.ext@bayer.com

までメールをお送りください。ご連絡いただいたメールアドレスに Web 講演会の事前登録案内を送付致します。



※こちらの 2 次元バーコードからも事前登録頂けます。

— ご来場の場合は、日本眼科学会専門医制度登録証 (カード) を必ずご持参ください。 —

～ プログラム ～

一般講演

16:20~17:00

座長 宮崎大学眼科 医局長 杉田 直大

- 「硝子体・白内障同時手術における眼内レンズ位置・屈折の検討」
○高橋重文、森洋斉、阿部謙太郎、片岡康志、宮田和典 - 宮田眼科病院 -
- 「EDTA-2Na で加療した JIA 関連ぶどう膜炎による帯状角膜変性の一例」
○河野資之、石合理崇、中馬秀樹、望月學、池田康博 - 宮崎大学眼科 -
- 「ステロイド局所投与後に漿液性網膜剥離を生じた一例」
○橋本直樹、荻野展永、杉田直大、出水誠二、池田康博 - 宮崎大学眼科 -
- 「視神経障害を合併した内頸動脈海綿静脈洞瘻の一例」
○今里美幸、中馬秀樹、大久保陽子、池田康博 - 宮崎大学眼科 -

特別講演

17:00~19:00

特別講演 I 17:00~18:00 座長 宮崎大学眼科 准教授 中馬 秀樹

『病態から考える加齢黄斑変性の長期マネジメント』

名古屋市立大学医学部眼科学教室 准教授 安川 力 先生

特別講演 II 18:00~19:00 座長 宮崎大学眼科 教授 池田 康博

『OCT-Angiography の日常診療への応用』

信州大学医学部眼科学教室 教授 村田 敏規 先生

共 催：宮崎大学眼科研究会・バイエル薬品株式会社・参天製薬株式会社

*生涯教育認定の為に、参加者記録を医師会と共有することがありますので、ご了承の上出席下さい。

*頂いた個人情報は本講演会以外の目的で使用することはありません。

特別講演Ⅰ 17:00～18:00

『病態から考える加齢黄斑変性の長期マネジメント』

名古屋市立大学医学部眼科学教室 准教授 安川 カ 先生

滲出型加齢黄斑変性（AMD）に対して、血管内皮増殖因子（VEGF）阻害療法と光線力学的療法（PDT）により、その視力予後は飛躍的に改善した。VEGF 阻害療法で長期維持が可能となったが、高齢者疾患であるため全身疾患や認知症などで治療を断念せざるを得ない場合や、高額な医療費で治療を拒否される場合もある。また、COVID-19 の流行で、眼科受診を減らしたい状況は今後も想定しておくべきであろう。導入期、維持期に続き、常に離脱期を迎える準備をしておく必要がある。

まず、①禁煙やサプリメントによる予防が大切である。AMD は片眼で済めば身体障害にならないので、高齢になる程、治療の中断、中止、休止を決断しやすい。予防は未来への治療であることを認識してほしい。②再発頻度が低い症例は必要時（PRN）投与で良い。③視力を落とすにくい網膜下液は治療休止でも良い場合がある。④視力改善見込みのない萎縮の上の網膜内嚢胞に対しては自覚症状の改善がなければ治療中断を検討する。⑤Treat and Extend 方式が治療回数／再診回数を少なく COVID-19 流行期でも計画を立てやすい。

本講演では、網膜色素上皮萎縮の進行による AMD 病態の変化に触れながら、長期マネジメントのコツを解説します。

特別講演Ⅱ 18:00～19:00

『OCT-Angiography の日常診療への応用』

信州大学医学部眼科学教室 教授 村田 敏規 先生

2018 年から診療報酬 400 点がついた OCT-angiography であるが、日常診療でどのように使えるのかについて、まだデータの蓄積が不足している。最近の特徴の一つは画像の広角化である。近年では one shot で 15 X 15mm や 28 X 19mm の画像が撮影できる機種も登場している。信州大学眼科で高解像度かつ広画角の撮影が可能な Swept Source-OCT-Angiography を導入して、糖尿病網膜症、網膜静脈分枝閉塞症、加齢黄斑変性にはじまり、ぶどう膜炎、中心性漿液性脈絡網膜症、更にまれな疾患として脈絡膜骨腫などで蓄積した信州大学眼科での経験を供覧したい。特に網膜静脈分枝閉塞症と糖尿病黄斑浮腫における臨床応用について述べさせて頂きたい。

いくつかの疾患では、日常診療に使用可能で、fluorescein angiography や indocyanine green angiography を施行する回数が減少する可能性がある。